

長期入院精神障害者の退院支援におけるソーシャルワーカーの「かかわり」



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 准教授

國重 智宏 Kunishige Tomohiro

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード：ソーシャルワーク・かかわり・援助関係/長期入院精神障害者・退院支援・地域移行支援

研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう

精神保健領域のソーシャルワークでは、クライアントとソーシャルワーカー（以下、Wr.）との関係を「かかわり」と表現する。この「かかわり」は、援助する者 - される者との間に形成される専門的な関係である「援助関係」とは異なり、援助という目的がない場面においても成立する関係である（國重 2025）。

本研究は、我が国の社会的課題であり、人権侵害である精神科病院における長期入院に焦点をあて、Wr. と長期入院精神障害者（以下、長期入院者）との間に築かれる関係のあり方について問うものである。

本研究の第1段階として、退院支援における Wr. と長期入院者との関係である「かかわり」について、相談支援事業所の Wr. を対象にインタビュー調査を実施した。修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下、M-GTA）を用いて分析した結果、Wr. は、退院意欲を示さない長期入院者に対して外出や外食等を「一緒に行く」ことを通して、「人と人」としての信頼関係を形成し、具体的な退院支援につなげていた（國重 2019）。

第2段階では、相談支援専門員に対して、退院支援における「かかわり」に関する質問紙調査を実施した。探索的因子分析の結果、「かかわり」の背景因子として「相談を受ける」「一緒におこなう」「本音を聴く」「つながり続ける」の4因子を抽出した。更に共分散構造分析を実施し、「一緒におこなう」ことなしに「本音を聴く」ことはできず、「本音を聴くこと」なしに「相談を受ける」ことはできないという変数間の関係を示した。また「一緒におこなう」のみが「退院あり」に影響を与えていた。これまで退院支援において一般的に重視されてきた「相談を受ける」以上に一見専門的には見えない「一緒におこなう」という行動レベルの支援が、長期入院者の退院というアウトカムにおいて重要であることを実証的に明らかにした（國重・吉田 2021）。

現在は、第3段階として「かかわり」のもう一方の主体である長期入院者の視点による調査を実施している。精神科病院での長期入院を経験した方たちにインタビュー調査を実施し、M-GTA を用いた分析をおこなっている。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、長期入院精神障害者の退院支援に取り組むソーシャルワーカーの暗黙知を実証的に示したものです。クライアントとの関係に悩むソーシャルワーカーや退院（地域移行）のための施策を推し進めていこうと考える自治体の方たちに参考にしていただければと考えております。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】

- ・「長期入院精神障害者の地域移行支援における相談支援専門員の「かかわり」」
- ・「長期入院精神障害者の退院支援における相談支援事業所に勤務する精神保健福祉士の「かかわり」のプロセス」

【著書】

- ・「精神医学ソーシャルワーカーの「かかわり」論」